

LOCAL
九州

北九州港、開港130周年で記念事業 港を中心としたにぎわい創出を目指す



北九州港は、明治22年(1889年)に門司港が国の特別輸出港に指定されてから、令和元年(2019年)で130周年という節目の年を迎えました!

1963年に門司市、小倉市、若松市、八幡市、戸畑市の五市が合併して北九州市が誕生しました。それを契機に、1964年、外国貿易の「門司港」、国内流通の「小倉港」、および工業港の「洞海港」を統合して「北九州港」となりました。

これまで北九州港は、地理的・社会的優位性を背景に、産業振興や雇用創出、旅客・輸送、流通・サービス、観光・レジャーなど、多様な役割を果たす港として発展してきました。

しかし、近年では経済のグローバル化の進展と東アジアの経済発展、本格的な人口減少・少子高齢化の進行、地球環境問題の深刻化、安全・安心に対する市民意識の高まりなど、北九州港を取り巻く社会経済情勢の変化を背景に、港に求められる役割も大きく変化してきました。

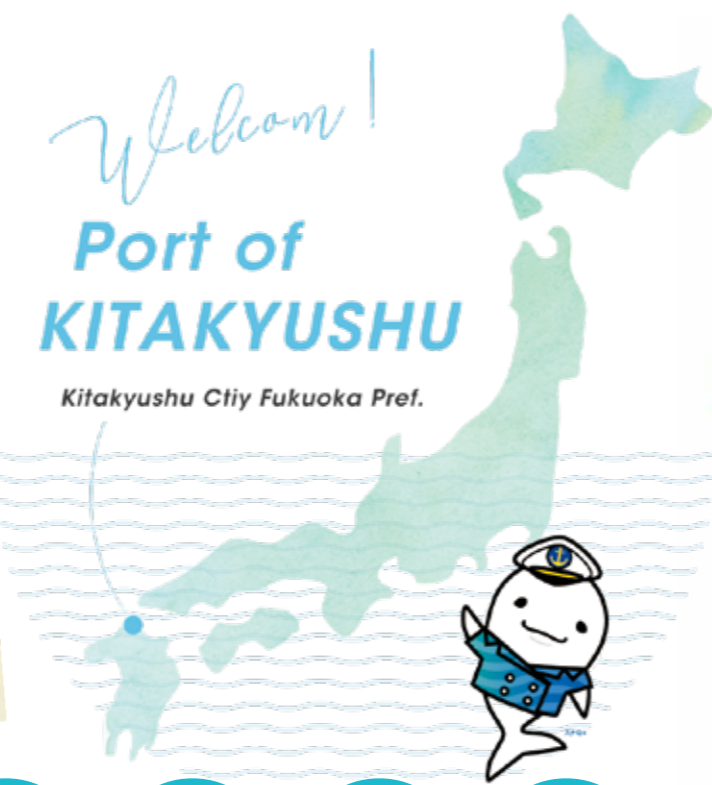
今回の開港130周年記念事業では、社会経済情勢の変化に対応し、時代のニーズに応える港として更なる発展を遂げるため、港を中心としたにぎわい創出を目指し、市民、企業、行政などが一体となった全員参加型の事業を実施しました。

(九州地方関門支部 津々見英一)



Welcome!
Port of
KITAKYUSHU

Kitakyushu City Fukuoka Pref.



ひびきコンテナターミナル



太刀浦コンテナターミナル



Check!

コンテナターミナルとは
コンテナを積み下ろしする
専用の機械がある場所。
太刀浦コンテナターミナルは
西日本最大級の施設
なれどって!

新門司フェリーターミナル



北九州市

日本社会はこれでいいのか!

人かん!

北海道で第56回護憲大会開かれる



函館キャラクター (怒る) イカヘル星人

憲法理念の実現をめざす
第56回 護憲大会
 2019 11/9 11/10 11/11
 HAKODATE SAT. SUN. MON.
 【会場】函館アリーナ 他 (函館市湯川町1丁目32-2)
 ■主催: 第56回護憲大会実行委員会 / ■連絡先: フォーラム平和・人権・環境
 東京都千代田区神田藤岡 3-2-11 逢会会館 1F / TEL. 03-5289-8222, FAX. 03-5289-8223, Email office@peace-forum.jp

LIBERTY
 PEACE
 RIGHTS

平和・自由・人権
 すべての生命を尊重する社会を

11月9日から11日にかけて北海道函館市函館アリーナにて、第56回護憲大会が開催され、北海道地本として3名参加してきました。皆さんご存知の通り北海道は広大な面積を有しており、最も本州に近い函館市に移動するには、私(伊藤)が住む釧路市から片道8時間を要します。大会当日、アリーナには総勢1,500名程の参加者が集まっており、オープニングに函館巴太鼓振興会の演奏で始まりました。藤本実行委員長をはじめ、来賓・連帯の方々挨拶を行い、特別報告として全日建連帯小谷野書記長が関西生コン協同組合における不当弾圧の実態を参加者に説明し全体で状況を共有したところです。その後16時から「日本社会はこれでいいのか。安倍政権の7年を問う」という議題で、3人の講師がそれぞれの立場で説明していました。

2日目は各分科会に分かれ、非核・平和・安全保障について、2人の講師がそれぞれ講義を行いました。共通した部分は現在の政治運営は国民主権から遠くかけ離れ、本来国民を守るべき憲法を縛り付け、監視下に置くことを目的として運用されているということでした。

最終日は閉会式に参加し、8時間をかけて地元に戻りました。非常に有意義な3日間となりました。参加させていただきありがとうございました。

(北海道地方本部書記次長 伊藤勇武)

第56回護憲大会オープニング
函館巴太鼓
 郷土芸能 函館巴太鼓振興会

北海道の中でも古い歴史を有し、長崎・横浜とともに我が国最初の貿易港として開港、以来いち早く外来文化の影響を受けた街・函館。そのための函館には、人的・物的数々のエピソード、名所・旧跡が街のいたる所に点在し、近年は「異国情緒が漂うロマンの街」をキャッチフレーズに、観光都市として多くの観光客が訪れています。過去には港・海運を中心に大いに隆盛を誇り、昭和初期のころは東京以北最大の都市であった時代もありました。反面、ハイカラな街だっただけに市民は様々な悩みを持っており、市民手作りの郷土芸能は死にたりませんでした。しかし、昭和40年ころから基幹産業であった北洋漁業基地としての当市の役割も薄れはじめ、将来の光輝が心配され出したのを契機に観光面での振興が一層議論を呼ぶようになりました。そんな中から郷土芸能を創作・育成しようとの声が高まってきました。その当時は、歌の「ふるさとの歌まつり」で全国の郷土芸能が紹介され出すなど、地方文化の交感も盛んになりました。そんな背景から、全国に誇れる郷土芸能を、このことでも市内商店街・商工会議所が中心となり誕生させたのが「函館巴太鼓」であります。名称の「巴」は函館港を象徴した函館市の市章であり、また理勲を表す印として「つば」が一般的に知られていますが、当市の巴は函館港にちなんで点巴を使用しているのが特色となっております。本年6月23日に50周年を迎えました。

